

さくらだより

第7号

2007年3月26日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6746



ことば

「笑顔が消えた日？」

京都老人ホーム 施設長 三代 修

この冬全国各地でノロウイルスによる感染性胃腸炎が猛威を振るっています。

一月から二月にかけて、当法人でもいくつかの事業所で感染者ができました。食中毒型感染ではなく吐物から空気中への飛散、ドアノブなどからの接触感染も有る事からなかなか収束しないのも厄介です。デイ事業所では二日間通所を停止して職員総出で掃除と消毒を徹底させて対応した所もありました。ある入居型事業所では一時、利用者さんだけでなく職員も多くの感染し介護・消毒をする人を確保するのが困難な状況に陥り感染していない職員は何日も出勤が続く日々でした。

鳥取市では学校給食を媒介して一〇〇〇人を超える小中学生が発症したそうです。調理員が発症していた報告を教育委員会は把握していたにも関わらず事態を拡大させてしまったようです。

私たちが得た教訓は、「清潔にする」「油断しない」「すぐにする」「徹底してやる」です。笑顔で過ごし続けるためにはきちんとした施設管理も欠かせないという事でしょうか。他山の石ですね。



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会

醍醐の家ほっこり 新規事業について

醍醐の家ほっこりでは三月をめぐり、二つの新しい事業を始めることになりました。

一つは「認知症対応型通所介護（デイサービス）」という認知症の方専用のデイサービスです。認知症があっても、「穏やかに暮らすことができない」「自分らしく暮らす」ためのお手伝いをさせていただきます。これまで行なってきた「通所介護（デイサービス）」にも認知症の方々は来られていましたが、認知症でない方々と一緒に過ごされると、なかには穏やかさを無くしてしまわれる方もおられました。それは、雰囲気になじみにくくなることや不安な気持ちになってしまうという、認知症という病特有のものでした。



そこで、認知症の方々でも「穏やかに過ごしていただく方法は何か？」と考えると、落ち着ける雰囲気の中で、ご自分のペースでのんびりと過ごしていただくことが一番いいのでは、という結論になりました。今回の事業を新たに行なうことになりました。開始するにあたっては、他のいくつかの

事業所へ実習に行き、そこで体験や感じたことなどと、どうすれば醍醐の家らしい「認知症対応型通所介護（デイサービス）」になるかを何度も話し合いながら準備を進めてきました。その中で「笑顔のたくさんある場所」「居心地のよい場所」「ここが生きているデイサービス」「気持ちに寄り添うデイサービス」「利用者さんの出来ること、楽しめることを見つめる」等

たくさんの方々の意見があり、方向性としては、「一人一人の役割や持っている力を生かし、楽しみを形にして、認知症があっても違和感なく生き生きと過ごせる場所」を作っていききたいと思っています。

もう一つの新規事業は、「小規模多機能型居宅介護」です。これは、認知症の方も含め、



介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域や環境の中で暮らし続けるためのサポートをするサービスです。具体的には、醍醐の家に通っていただく、必要ときは泊まっていたり、必要に応じて泊まっています。またご自宅へ訪問させていただきます、ご自宅での生活のお手伝いをさせていただきます。通い慣れた場所での泊

事業概要

1 小規模多機能居宅介護事業所

醍醐の家ほっこり

住所 京都市伏見区醍醐南里町30-1

連絡先 075-574-2882

営業日 年中無休

営業時間 年中無休

通所標準時間 8:30~17:00

登録定員 25人

通いサービスの利用定員 15人

宿泊サービスの利用定員 9人

食事に関する費用 1,480円（朝食：380円 昼食：550円 夕食：550円）

宿泊に関する費用 3,000円

通常の事業実施地域 伏見区醍醐・池田・池田東

2 デイサービスセンター 醍醐の家ほっこり

住所 京都市伏見区醍醐南里町30-1

連絡先 075-574-2882

営業日 月曜日～土曜日

営業時間 8:30~17:00

定員 12人

食事に関する費用 昼食：500円

通常の事業実施地域 伏見区醍醐・池田・池田東

まりや、馴染みのあるスタッフの中でのサービスを利用することによって、安心して穏やかに過ごしていただけるのでは、と考えています。

いがあります。また醍醐の家の部屋をご近所の方たちに会議やサークル活動などで使っていただいています。その他に、「運営推進会議」を二ヶ月に一度開催し、地域の関係者団体の代表者やご利用者さんやそのご家族の方々と事業所と話し合い、現状報告や、たくさんのご意見をいただくことによって、よりよいサービスが出来るようつ

とめています。このような関係の中、たくさんの方々のつながりを大切にして、地域での醍醐の家出来る役割は何かを考え、しっかりと「なじみの関係」を作っていくことで、介護が必要になっても地域の中で暮らし続けていきたいという利用者さんの思いに添えていきたいと思っています。



伊藤さんや!

特別養護老人ホーム

個別レクリエーションの企画を考えていたときのことでした。

これまでの、個別レクはあらかじめこちらで、行き先を決め、その中から選んで、行って頂いていました。

でも、レクリエーションって利用者本人が行きたい所(したいこと)を決めないと、本当の意味で楽しむことって出来ないんじゃない? そんな声が職員からあがりました。



た、普段伊藤さんから「油小路へ行く、雄琴に帰る、バスはあるか?」などよく耳にしていたことを思い出しました。これはひよっとしたらと思い、今回以前住んでお

れた、油小路へ行くことになりました。

自宅前に着いて、車から降りるなり近所の方が「伊藤さんか? 伊藤さんや!」と声をかけてこられ、お菓子を持ってこられたり、伊藤さんの手を握りながらとても懐かしそうに話されました。また、近所のうどん屋さんを覚えておられ、通りかかった際に「ともゑや」と言われた際に「ともゑや」と言われ、懐かしい方に会われたり、住んでおられた家に「伊藤」と書いてある表札を見られ、皆さんと写真を撮られ、今までにない笑顔でした。

伊藤さんの笑顔を見て、私たちも嬉しくなり、伊藤さんにとって本当に行きたい所に行けて良かったと思い、これ

からは、その方の意向に沿った個別レクを目指していきたいと思います。

しばらく経ってからも、うどん屋さんの話をすると、すぐに「ともゑさんか」と嬉しそうに話されました。次は雄琴へGO!



京都老人ホームデイサービスセンター 利用者さんに笑顔の花を

京老デイサービスでは、年明けの一月二五日から一週間、新年会を開き、お鍋や焼き焼などを召し上がっていただきました。元気に来所された利用者さんとビールやお酒で乾杯!! あつあつの美味しいお鍋をつつきながら、和やかな雰囲気の中、家族と過

ごされたことや、外出されたこと等笑顔で語って下さいました。その中でも「今年も元気に来るよ」という、その言葉が耳にし、いつまでもお元気でいて欲しいと願うと同時に、職員もよりいっそう、やる気を振るいたたせております。



又、ヘルパーステーションでは新年は身体介護のかたを中心に元旦からも訪問させていただきました。利用者さんと共に新年を迎えられたことを喜びに感じております。ヘルパーは日常生活の範囲内のことしかできませんが、ヘルパーが訪問し、出来ることは、用意されたおせちを配膳すること等です。小さなことですが、独居の方にも、少しでもお正月の雰囲気味わっていただけなのではと思っております。利用者さんに喜んでもらえることが私たちヘルパーの喜び・励みにもなっております。利用者さんの生活に笑顔の花が咲かせられるように、又その花に出会えるようにこれからも色々な方との出会い



を大切にしていきたく思っております。

今後もヘルパー・デイ・支援の在宅部一丸となって頑張っていきたいと思っております。末永く宜しく願っております。

「新制度によつて 笑顔がつぶされる?」 笑顔がつぶされる?」

〜養護老人ホームの試み〜

笑顔とは、赤ちゃんからお年寄りまで共通の自己表現であり、心をなごませてくれるものです。でも今日の厳しい介護の状況では、利用者からの心からの笑顔



が温かな微笑みを常に保つことも完全にできていないかもしれません。ゆとりのある介護を目指している私たちにとっては本当に残念な今日この頃です。本年はまた、例年のない伝染力を持つノロウイルスが流行して私たち職員は一名でも感染者を出さずにいたいと念じながら消毒に明け暮れる日々が続きました。

また平成一八年四月からは、特定施設として介護保険サービスが導入されました。事前に新制度やアセスメント・ケアプラン等の勉強会を数回行い、なお理解不足や不安をかかえながら六ヶ月の準備期間をおいて



一〇月からスタートしたのです。

利用者からは介護保険サービスを受けている人のみ大事にされて、そうでない人はほっておかれるのではないかと、また保険が使えるからには何でもしてもらえると誤解される方など様々な反応がありました。私たち、介護職員も笑顔ど

ころか、眉間にしわをよせてむずかしい顔をしていることも多かったような気がします。

養護老人ホームといえども、加齢にともない心身の自立度が低下し、日々の身体介護に多くの時間を費やさなければならぬ現状です。本来の私たちの目指すゆとりのある介護が出来ず、申し訳なさと、歯がゆさを感じているのです。利用者も介護職員も養護老人ホーム全体がやわらかな微笑みに満たされているようなところがありたいと願っています。



お客様の笑顔のために…

板橋の町家に和喫茶「さくら」がオープンし、キッチン「さくら」から店長が誕生しました。一定のお客様限定で料理を作っていた私たちにとつて子どもからお年寄りまで幅広い層に親しまれるよう、憩いの場となるようにメニューも考え、店長が毎日頭をひねり、試行錯誤しながらオープンしました。

たくさんの方に来店していただき、どうしたらお客様に喜んでいただき笑顔で帰っていただけるかと考えながらの毎日です。

メニューには特製ようかんや酒粕パウンドケーキ、お正月にはおせち定食もしました。日々変化をもたらし、飽きの来ない場となるよう考えています。

一方、キッチン「さくら」では、常にお客様のニーズがわかり、今日の人数は何人と



決まっています。ですが、その方の顔やその日の体調等は把握することが出来ず、お客様と接することがほとんどありません。

でも、何度かお客様に話をする機会が増えたと、うれし

いことが多々あります。

こちらから、「お味はいかがですか?」と声をかけることが多かった今までですが、一度笑顔でお話ししてみると、次からは私たちの顔を覚えて頂き、お客様から「ちょっと! ちょっと!」「今日のごはんはグー、グー、またこういうの作ってね!」とか



「私、千切り大根とか、おからのたいたんが好きやからまた作ってね!」等、うれしい声をかけてもらうようになりました。

和喫茶「さくら」で気づいた、どうしたら喜んで頂き笑顔に出会えるか、お客様が何を求めているかを考えながらキッチン「さくら」でも作ってきたいと思っています。

私たちにとって料理を作ることは一人一人一人一人に笑顔で食事を満足して頂けるようにと想いながら作って行くことです。その笑顔が見られなくて、今日の料理は味が薄いなあとおっしゃられることもありますが、その言葉を次に生かし、次は一発で満足していただけるものを! と思いついています。

和喫茶 さくら

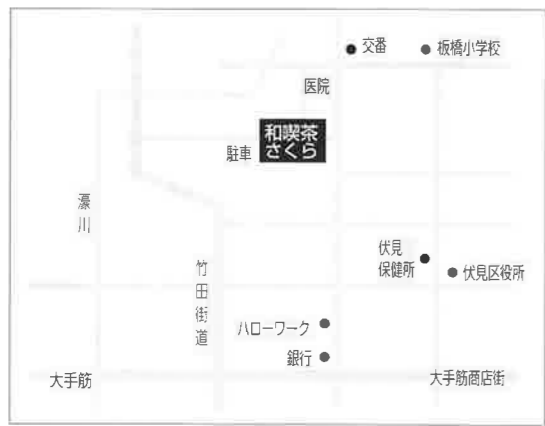
大正9年に建てられた町家を改築し一階で喫茶を営んでいます。奥深い町家の歴史に触れながらほっこりしたひとときをお過ごし下さい。

ようかん・抹茶付 ¥450
お持ち帰り ¥700
酒粕パウンドケーキ ¥300
お持ち帰り ¥800

※ランチもございます
電話 075-605-4670
〒612-8351

京都市伏見区土橋町334-1
営業時間 11時30分〜17時
(ラストオーダー16時30分)

定休日 毎週 火・水曜日
※駐車場、駐輪場ございます



メンタルヘルス

あなたの心は 今何色ですか？
 どんな形をしていますか？
 気持ちはずいぶん進みたいのに
 動けなくなっていますか？



<笑顔のメンタルヘルス>

「笑う」って素敵なことですよね？

あなたが笑うと、周りの人も楽しくなるし、嬉しい気分になります。

そんなあなたが持っている笑顔のパワーに気づいていますか？

鏡の前で次の3つのことを試してみませんか？

1. 鏡に映る自分の目を柔らかく見、眉を上げる。
2. 口角をうんと上げる。
3. 息を吹きながら歯を見せる。



できあがったのは、自分の笑顔……かな。

表情や感情は人にうつるもののようです。

社会福祉法人 京都老人福祉協会グループ

- 京都市伏見区地域介護予防推進センター
- 京都市深草・北部地域包括支援センター

新規事業所紹介

- ◆ 京都市東高瀬川地域包括支援センター
住所 京都市伏見区北端町44-7
TEL 075-622-7745
- ◆ 京都市伏見区地域介護予防推進センター
住所 京都市伏見区深草一ノ坪町40-6
TEL 075-641-2543
- ◆ 京都市深草・北部地域包括支援センター
住所 京都市伏見区深草一ノ坪町40-6
TEL 075-641-2544



ご協力お願いします

50周年記念誌を企画しております。
 昭和30〜40年代の京都老人ホームの出来事を知っておられる方、写真等をお持ちの方はお貸しいただけませんか？
 連絡先 法人事務局・富田 ☎ 075-641-6622